

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 2020

事業所番号	2690400052		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム京都下京の家		
所在地	京都市下京区夷馬場町30-1		
自己評価作成日	2020年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	2021年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域と手をつなぎ、安心・安全な暖かい共同家庭を作っています。お誕生会はもちろん、1月はお正月・2月は節分・3月はひな祭り・4月はお花見等々毎月の行事を通じて四季を感じて頂きながら、職員共々日々穏やかに楽しく暮らせる様支援しています。町の真ん中で狭い空間ですが職員共々笑顔が絶えない楽しい暮らしをして頂けるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市の南西部、京都駅に近い住宅街にある1ユニットのグループホーム、開設10年になる。現在はコロナ禍という社会状況や介護職員の人手不足等、様々な厳しい条件でありながら、グループホームの運営や認知症介護の経験豊富な管理者が利用者本位という1点をゆるがせにすることなく、日夜取り組んでいる。利用者にとって現在は面会や外出が少なく、地域の人との交流が無理なため、職員はせめて内部の行事を頑張ろうとしている。毎月のお誕生会にはバースデイクッキーを手作りし、職員みんなで寄せ書きした色紙とお箸や靴下をプレゼントしている。京都のグループホームらしく京都の生活文化を大事にし、毎月の季節行事をしている。1月は各居室にしめ飾りを掛け、利用者は書初めをしている。2月は豆まき、3月はひな祭り、4月は花見、5月は端午の節句、7月は七夕等、これらの行事を行うと共に行事を表した大きな貼り絵を利用者と職員と一緒に制作し、ホールの壁に貼っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「地域と手をつなぎ安心、安全、温かい住み家にしよう」に添って地域との繋がりを進めていきたいと思えます。	グループホームの理念は開設時に管理者と職員が話し合って策定している。ホーム内に掲示している。年度ごとの確認はしていない。利用者や家族、地域の人に周知を図っていない。職員に研修をしていない。理念の実践に取り組んでいない。	理念は額に入れて飾っておくものではなく、未来永劫に変更しないものではない。利用者も職員も年々変化するなかで、下京の家として何を目標に努力し実践していくのか、について話し合い、策定すること、管理者及び職員は常に理念を認識、実践していくこと、利用者や家族、地域の人に周知を図り、理念の実践を見守ってもらうこと、以上の3点が求められる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地藏盆の行事に参加させて頂いたり回覧板を通して地域の情報を得ています。※本年年度の地域の行事は今の所中止となっています。	利用者はふだんホームの周りや近くの諏訪開公演、梅小路公園等を散歩、近くにある郵便局、コンビニ、文具店等を利用している。地藏盆や氏神様の稲荷大社のお祭りを楽しんでいる。ホームは地域のスーパー、ホームセンター、ドラッグストア等を利用している。町内会に加入、回覧板がまわってくる。回覧板にはホームの情報を掲載している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今の所、地域への貢献は出来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加して頂いた地域の方のご意見を参考にし出来ることは実践していきたいと思えます。※本年年度の例会は、4月・6月・8月中止させて頂きましたが、関係者の皆様には施設内の近況はお手紙でご報告させて頂いています。	大内民生児童委員、下京区社会福祉協議会、下京区保険福祉センター、下京西部地域包括支援センターが委員となり隔月に開催、記録を残している。家族は参加していない。ホームから利用者状況、事故・ヒヤリハット、職員研修、行事等を報告し、意見交換している。会議では他の事業所におけるコロナ感染対策や感染予防対策の情報を聞くことができ非常に参考になっている。	運営推進会議は地域密着型サービスであるグループホームが地域の住民にとって認知症や介護に困った時の頼りになる欠かせない事業所になるように、家族、地域住民、行政の三者が話し合う会議である。2人以上の家族、町内会の人等に参加してもらうことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	参加して頂いた地域の方のご意見を参考にして出来ることは実践していきたいと思えます。	京都市とは必要な報告や相談をし、連携を保っている。地域ケア会議に参加、情報交換や学びをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を通じ具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしない、させないケアに努めています。	身体拘束をテーマに職員研修を年4回開催、職員は拘束11項目、やむを得ず拘束する場合の3要件、スピーチロック等について認識している。身体拘束適正化委員会が日常点検している。身体拘束の事例はない。玄関ドアは施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通じ、認識、理解を深め現場での虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用する方がおられ、学ぶ機会が多くなり、それぞれの必要性を話し合い活用できるようにして行きたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、入居後のトラブル、誤解の起きないように説明に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内では意見箱を設け、法人としては意見等を言える専用窓口を設けています。	家族の面会は毎月の人もあり、年1回の人もある。家族には行事報告とその写真を郵送している。行事案内、職員紹介、献立等の報告はしていない。利用者ごとの個別に便りはしていない。家族会はしていない。運営に関する家族の意見は聞いていない。	家族は職員と共に利用者を支える車の両輪のひとつである。家族には行事報告だけでなく、行事予定、職員異動や職員紹介、献立等を報告すること、家族会を開催し家族同士が交流することによってグループホームの運営に協力してもらうようにすること、以上の2点が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定期会議、毎週本部よりの通達、日々の職場での連絡事項を通じてお互いに提案、意見交換を行っています。	職員会議は毎月開催、運営の話し合いと利用者カンファレンス、年間プログラムによる内部研修をしている。管理者は職員に介護という仕事の社会的意義を自覚してもらいたいと考え、職員研修している。会議では職員は意見や提案を出している。「事業所に公用車がほしい」との意見を聞いている。職員は利用者の担当と委員会活動等により、役割分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員の福利厚生面において法人内の福利厚生施設での各関係講習会や前向きになるための気持ち良い職場作りに取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前より一貫して法人の管理者研修他、自己啓発のための講習、資格取得の推奨、それに付随する手当等、職員組織全体のレベルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での連絡会、交流会に参加し事例紹介や各施設での出来事を話し合い職員間の交流を拡大していきます。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人様は不安、孤独感、緊張感があり、出来るだけ払拭できるように声掛け見守り受容等、意思の疎通を図っていきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも施設に望まれている事を聞き取り、御本人共々、関係づくりに努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様の要望に対して充分対応支援出来ることを説明し、施設の生活に一日も早く馴染めるよう心掛けていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と共に暮らしていける関係づくりを築けるように努力をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と共に本人を支えていく関係を築くように努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に築いてきた人間関係が希薄にならないように家族、知人の面会等、来訪を促しています。※3月から面会制限しており、家族様には電話や、差し入れの際ご様子をお伝えしています。	利用者の馴染みの人や場所との関係支援はしていない。	利用者は長い人生を送ってきて今グループホームで最後の日々を暮らしている。子どもや学生のころに親しかった友人、現役の時の仕事仲間や趣味の仲間、長く会っていないのもう一度会ってみたい。会うのが無理なら手紙や電話で話してみたい。生まれた家、先祖の墓、かつて住んでいた家、仕事場、昔よく見に行った祭り、花見をした所等々、もう一度行ってみたい。こういった人や場所との支援をすることが求められる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が互いに仲よく関わり会えるように支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡を取り相談や支援に応じえています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いや暮らしの希望、意向の把握に努めています。	契約時には管理者が利用者、家族に面談、利用者の介護や医療の情報を収集、これまでの生活や家族関係等を聴取している。グループホームの説明をし、同時に下京の家での暮らしについて意向を聞いている。利用者の生活歴を聴取、記録している。石川県七尾市、三重県尾鷲市、京都市等出身地、寺、魚屋、5人兄弟、6人兄弟等生家のこと、町役場、一流ホテル等現役の時の仕事、建築業、魚屋、製麺業、子ども3人等結婚生活、趣味はカラオケ、書道、読書等、利用者の生活歴を記録している。グループホームでの意向は「楽しくすごしたい」等を記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の暮らしてこられた生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年齢、体力、病歴等を考慮して散歩他、各々の出来る事の理解に努め本人の負担にならないように生活レベルを維持していきます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状に即した介護計画を作成するように努めています。	ケアマネジャーが利用者のアセスメントをし、介護計画を作成している。介護計画には利用者、家族、医師の意見を反映している。介護計画は身体介護の項目が多く、生活の楽しみの項目はレク、行事参加等、共通の項目であり、その人固有の楽しみは入っていない。認知症の周辺症状への対応の項目はない。サービス担当者会議の参加は利用者のみ、家族や医師は参加していない。介護記録は生活のデータ、日中記事、夜間記事であり、介護計画の実施記録はない。モニタリングは介護計画の評価になっていない。	介護計画には身体介護のみならず、暮らしの中のその人固有の楽しみの項目、認知症周辺症状への対応の項目を入れること、介護記録は暮らしのデータと利用者の様子のみならず介護計画の実施記録を書き、モニタリングの根拠となるようにすること、モニタリングは介護計画の評価として毎月実施すること、以上の3点が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、介護記録を通じて体調管理等に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の体調変化やニーズに対してその都度、通院介助付き添い等、多機能的に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、入居者の皆さんで楽しむことができるよう支援していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院と連絡を取り、適切な医療が受けられるように支援しています。	利用者のかかりつけ医は協力医院からの往診にきてくれる医師である。内科、眼科、歯科を依頼してる。急変時等の相談にのってくれる。認知症は永原診療会千本診療所を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さまが適切な受診や看護を受けられるように支援していきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前カンファレンスに参加し相談員の方と情報の共有をしていきます。また、退院(帰館)出来なくなった場合、転居先を速やかに紹介して頂く為の関係の構築に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族様と話し合っって重度化や終末期に向けて方針を決めています。	利用者の重度化や終末期に関する方針は契約書に退居条件として長期間医療対応が必要な場合と明記されており、家族に説明、了解をとっている。家族の意向を聴取し、「延命措置はいらない」という人が多い。看取り対応については家族の希望と職員体制を考慮して検討している。今までに2例経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や急変時の対応について施設職員で勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含め避難訓練を年二回実施しています。	火災に対しての避難訓練は年2回実施している。地震、風水害、夜間帯の避難訓練はしていない。備蓄を準備、ハザードマップは掲示し、職員は危険箇所を認識している。災害時における法人内相互協力の規定はない。災害時において地域の人への協力の依頼はしていない。	避難訓練は火災に対してのみならず、地震、風水害、夜間帯についても実施すること、災害時における法人内相互協力の規定を作成すること、災害時に地域の人への協力をお願いすること、以上の3点が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格、誇り、プライバシーを損ねない対応を心がけています。	利用者への言葉遣いや対応についての基本方針は「利用者の人格、誇り、プライバシーを尊重する」であり、職員に接遇の研修をしている。馴れ馴れしい言葉や流行語、スピーチロックの使用を禁じている。職員会議や申し送りは利用者のいない場所で行い、プライバシーに配慮している。生活では押し付けではなく利用者に決めてもらいたいと、着る服、飲み物等、利用者が決めている。化粧品を持っていて化粧する人、訪問美容師に髪型やヘアカラーを注文する人もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定を支援しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた介護を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものとなるよう、工夫に努めています。またテーブル拭きや食器洗い・食器拭き等は出来る方には順番で行って頂いています。	食材は毎週職員が買いに行く。朝食は夜勤者が献立を立て手作りしている。昼食、夕食はごはんと汁ものを手作り、主菜は宅配サービスから調理済みを購入している。季節感、利用者の好き嫌い、見た目の彩り等を大事にしている。利用者は3、4人ずつが食卓を囲み、自分用のお箸で食事している。七草粥等の行事食を大事にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を一人一人把握しており、水分量についても不足とならないよう心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の口腔ケアは必ず実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗を咎めることなく、気長に自立に向けて支援しています。	尿意があり、トイレの場所を知っていて自身で処置できるという、排泄の自立をしている利用者は6人、日中もオムツ使用の利用者は1人である。2人は職員がトイレ誘導している。水分補給と体操により自然排便を支援している。下剤の常用使用は5人、頓服使用は1人である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにて把握をし、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の体調に合わせて週2～3回入浴できるように支援しています。	利用者の入浴日や時間は決め、声をかけて毎週2回の入浴を支援している。入浴拒否の人には日や時間、声掛けの職員等を変更して対応している。入浴しない日が1か月になったとき、家族に依頼して銭湯に同行してもらったこともある。今は入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節や気候の変化に応じて室温や寝具を適宜調節し、安心して気持ちよく眠れるよう工夫して支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理には特に気を付けており、主治医・薬局との連携を密にし、症状の変化等、観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味を把握して折り紙、塗り絵、歌、カルタ取り等、また、簡単なお手伝いを苦にならないように社会的共同参加をお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寒暖の差が厳しい時期以外は毎日散歩に出掛けられるようにしており、季節毎のドライブを楽しみにされています。※本年度は、玄関先での外気浴程度の外出に制限させて頂いています。	気候が良く、天気が好ければ、利用者は毎日のようにホームの近くの諏訪閣公園や梅小路公園に行き、ベンチでゆっくり四季の風景を楽しんでいる。鴨川の土手で花見をしている。利用者が「○○へ行きたい」「○○を買いたい」等の希望が出たときは職員が個別に同行している。その際必要な時は介護タクシーを利用する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物があるときにはご家族様に相談の上、職員と一緒に買い物に出かけています。 ※本年度は、職員だけで買い物に出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望時には職員見守りにて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に整理整頓、掃除を心がけ、気持ち良く過ごせるよう努めています。	奥に長い中央に位置する居間兼食堂(ホール)はごちんまりと落ち着いた雰囲気、窓から外部の風景が目に入る。壁には折り紙で作った日めくり、季節ごとのひな祭り、こいのぼり、七夕等の飾り絵を利用者と職員が一緒に作成して貼っている。利用者自作の塗り絵、手芸品、書、作品も飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビや新聞を観たり折り紙やぬり絵をしたりと、各々に過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある荷物をお持ちいただき、自宅で過ごしているような気持ちでいられるよう努めています。	居室は洋間、木製ベッド、クローゼットを設置している。利用者は筆筒、衣装ケース、位牌、遺影、家族写真、アルバム、文具類、愛読書、自作の絵画等、自身が大切にしていた馴染みのものを持ち込み、住み心地良くしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーの環境を整備し、安全に配慮した空間を作れるよう努めています。		